

東川の公共交通、新たなステップを話し合い

6月13日、町は役場で東川町地域公共交通活性化協議会（会長・松岡市郎町長）を開き、昨年度まで3年間実施した町内公共交通実証実験の結果を報告、新たな改善点の検討を話し合いました。

町内の公共交通輸送体系は、昨年度まで3年間、スクールバス（町営バス3路線）、乗り合いタクシーを基幹に運行をしてきました。



議を進めます。

旭川市内と町内幹線を結ぶ旭川電気軌道の路線バスは、昨年11月から東神楽、東川両町を相互に経由する運行ルートに再編しました（67番、76番）。JR旭川駅～旭岳温泉間（天人峡温泉）直行便

路線バスの「いで湯号」は、昨年7月から運行ルートを「旭川空港～東神楽町経由」に変更して運行しています。観光客が利用しやすい運行ルートで今後の利用促進に期待をかけています。

交通事故絶滅目指して交通安全大会

5月28日、東川建設業協会（藤田裕三会長）の東川建設業協会安全大会、東川町交通安全協会（同）の交通安全町民大会がともに農村環境改善センターで開かれました。

安全大会には、町内の建設関係事業所の従業員を中心に約150人が出席。町民大会には各行政区役員、高齢者団体関係者、交通安全指導員ら約300人が出席しました。

エキノコックス症を正しく知る講演会

6月11日、町は農村環境改善センターで町内在住の写真家で獣医師の竹田津実さんを講師に「キタキツネとエキノコックス講演会」を開きました。

「キツネへのエキノコックス虫寄生率は50%を越えて増加している」「エキノコックス虫の卵を含んだキツネのふんところに飼い犬、猫が近づいて卵を体毛に付け、そのまま人間のもとに戻る。人間は飼い犬、飼い猫をなでてかわいがり、手や指から卵が感染する」などと感染経路を示しました。

町は昨年からエキノコックス対策として、虫下し薬を魚かすに混ぜてえさ状にし、町内各所に散布する事業を始



めています。竹田津さんによると、3年目から効果が表れる調査結果が出ています。

来賓で訪れた坂井英文旭川東警察署



沖町内会長の宣言

長は「高齢者の事故が増加し、そのうち歩行者事故が8割。また交差点で自動車と自転車の事故が増えている」と高齢者と自転車事故の防止を訴えました。

会場では東川小学校6年、早川昌悟君と東川中学校3年の及川りこさん2人が交通安全の作文を読み上げ、西行政区の沖忠平会長が交通安全宣言をしました。